## 助手席・ニーエアバッグ部品
# ベトナムで増産
### 豊田合成

豊田合成は13日、ベトナムでエアバッグ部品を増産すると発表した。世界で需要が増えている助手席用と脚部を保護するニーエアバッグ部品の生産を増やす。

豊田合成ハイフォン（TGHP、ハイフォン市）のタイビン工場に約18億円を投じて新棟を建設し、2021年10月から助手席およびニーエアバッグの生産を始める。23年度の年産能力を2500万個と18年度実績の約1・5倍に高める。エアバッグ部品は縫製に手間がかかるため、タイビン工場の従業員も足もとの約700人から23年度末には2千人へ3倍弱に増やす計画だ。生産したエアバッグ部品は主に日本へ送り、エアバッグモジュールに仕立てる。

同社はエアバッグを中心とするセーフティーシステム製品を重点事業と位置づけており、エアバッグの総生産能力を23年度までに18年度実績の約1・6倍となる年間1億個に引き上げる方針だ。

水素STの完成イメージ

が参画しており、富山トヨペット（木村正人社長、富山市）やホンダ自販タナカ（浅生忠和社長、富山市）を含む

ラーが水素ST事業に参入しているケースはほかにもあるが、複数のメーカー傘下にあるディーラーが共同で水素S

ランドローバー（JLR）が主催する「サプライヤーエクセレンスアワード」の非生産購買部門でゴールドアワードを受賞したと発表した。ヨーロッパ竹中は2018年に竣工した「ジャガーランドローバースロバキア工場」で、予算や品質、納期に対する高い対応力と、BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）などの最先端技術を駆使し、さまざまな課題解決に取り組んだことが評価されたとしている。非生産購買部門で建設会社としてゴールドアワード受賞は初めてという。

JLRは約3千社にのぼる

## カナダ・オンタリオ州経済開発・雇用創出・貿易大臣
# ヴィック・フェデリ氏
## 次世代車開発積極後押し
### 州内に200社の技術企業　豊富な人材と環境

インタビュー

部品／生産／技術

カナダのオンタリオ州は、トヨタ自動車、ホンダ、フォード、ゼネラル・モーターズ（GM）、FCAのグローバルメーカー5社が生産拠点を構え、自動車年間生産台数は200万台に達する。一方で、州内にはIT企業など約200社の技術クラスターを有し、北米2位の規模を誇る。オンタリオ州はこの恵まれた環境を生かし、自動運転車やコネクテッドカーなど次世代車開発を積極的に後押しする。10月に来日した同州のヴィック・フェデリ大臣に自動車産業の展望を聞いた。

（長谷部　万人）

―オンタリオ州の自動車産業の概要は

「州内の年間自動車生産台数は約200万台で、これは英国やイタリアの規模を超える。生産台数の85％は米国への輸出分だ。自動車関連の従業員数は10万人以上で、部品サプライヤーが700社、切削工具・金型メーカーが500社と裾野が広く、経済規模は140億カナダドル。自動車産業熟練工教育については24プログラムを展開している。州として40カ国と自由貿易協定を締結しているため、約15億の顧客にアクセス可能な点が強みだ」

―州内で次世代車開発が活発だが

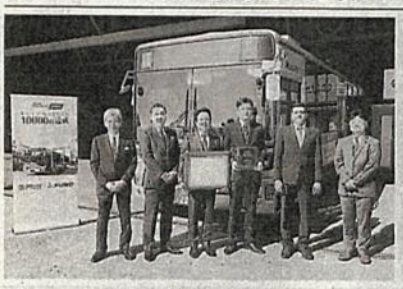
「自動運転車やコネクテッドカーなど次世代車領域で、オンタリオ州はグローバルリーダーになり得る非常にユニークなポジションにある。自動車生産品質で世界1位（調査会社調べ）の先進的な製造技術レベルを維持する一方、デジタルテクノロジーや金融関連企業が集積するなど、スマートモビリティ社会を推進する環境が整っている。例えば米国ではミシガン州に自動車生産拠点が集積するが、ITなどテクノロジー関連企業はシリコンバレーに集中している。オンタリオ州は、この両方の領域を州内に収めており、自動車領域とテクノロジー領域を融合させる環境が整っている」

―オンタリオ州としての具体的な支援策は

「自動運転やコネクテッドカー、テクノロジーを対象に、すでにマッチングファンドとして産業界から8500万カナダドルを拠出、投資している。『自動運転車イノベーション・ネットワーク』（AVIN）の一環で、2017年に自動運転車の開発に利用できる実証実験地区をストラットフォード市に開設した。また、公道での自動運転車の運転試験をカナダで最初に許可している。現在、許可された大学や企業など10団体が活用している」

―自動車やテクノロジー関連企業が州内に集積する理由は

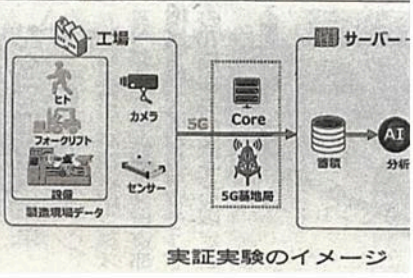
「モビリティや自動運転、コネクテッドなどに取り組む企業はスタートアップも含めて約200社が集積し、技術開発や新たなビジネスモデルを検討している。人材が豊富な恵まれた環境は、次世代車開発領域において、先進的なメカトロニクスを使って人工知能（AI）やソフトウエアを生み出すのに最適で、他地域と差別化するための強みとなっている。この強みを生み出す要因として、産学連携による高いスキルを持つ人材の育成が挙げられる。現在、サイエンス、エンジニアリング、テクノロジー、数学関連の大学の卒業生数は年間4万3千人に達する。優秀な人材の育成に加え、州内企業支援の一環で従業員の安全確保のための保険料の引き下げや設備投資額を1年間で償却可能とするなど、毎年50億カナダドルの企業負担削減施策を継続することで、企業がビジネスを展開しやすい環境を整えている。優秀な人材が集まる場所に企業が進出する好循環が生まれている」



# 累計搭載台数1万台に
## 大型路線バス用AT「Tモデル」
### アリソン ジャパン

商用車向け自動変速機（AT）などを手がけるアリソンジャパンは、大型路線バス用のAT「Tモデル」の累計搭載台数が1万台に到達したと発表した。ドライバー不足を背景にAT車を採用するバス事業者が増えており、国内では大型路線バスの4分の3にATが取り入れられている。同社では「安全性や燃費改善の点で今後も引き合いが増す」と見ており、さらなる拡販に力を入れていく。

搭載車1万台目を納入した神奈川中央交通伊勢原事業所で納入式典を開いた＝写真。



実証実験のイメージ